

市町村名 ★	中間市		
事例名 ★	なかま応援システム	予算 ★	0 千円
実施期間 ★	令和 7年 4月 1日 ~ 令和 8年 3月31日	実施回数 ★	全 回

1. 取り組みの概要 ★	
<p>なかま応援システムは、各部署の繁忙期における業務について、他部署から職員の応援協力を得る制度である。所属長が職員応援要請書を提出し、総務課が応援要請一覧表を作成して全職員へ周知することで、必要な業務に応援が集まる仕組みを整えている。職員は一覧表から応援業務を選び、予定を調整したうえで応援登録を行う。応援終了後は報告書を作成し、制度の改善に生かす。</p>	
2. 内容 ★	
目的や特徴	<p>繁忙期における課等相互間における臨時的な応援体制を確立することにより、職員の士気高揚及び組織の活性化をたかめ、もって時間勤務の縮減、行政運営の効率化及び市民サービスの向上を図ることを目的とする また、応援職員においては、コミュニケーションの活性化や他部署業務の知識習得を図ることができるという点で、職員研修としても位置付ける</p>
経緯や背景	<p>中間市では、従来、部署ごとの繁忙期には人員が不足し、業務が逼迫するケースがたびたび発生していた。特に年度末や特定事務の集中時期には負担が一部部署に偏り、時間外勤務が増えるなどの課題があった。この状況を解消し、組織全体で業務を支え合う仕組みをつくる必要があったことから、なかま応援システムの導入が検討・実施された。背景には、職員の負担軽減と持続可能な事務体制を整える目的がある。</p>
課題	<p>応援要請部署が求める職員数の協力が得られるか懸念はあったが、なかま応援システム導入に係る課題は特になかった。</p>
実施するために用いた技術や手法、アイデアなど	<p>本制度の運用にあたっては、各部署の業務量を的確に把握するため、職員応援要請書による事前申請方式を採用し、情報を総務課に一元化した。また、応援要請一覧表を作成し全職員に共有することで、職員自らが応援先を選択できる仕組みとした。さらに、デスクネットの回覧・レポートを用いた正式依頼により、通知の確実性を高めた。これらの手法により、応援体制の透明性と効率性を確保した。また、応援後の報告書により、制度の改善点や業務量の把握を可能とし、次年度の運用改善につなげている。</p>
成果や効果	<p>制度により業務遅延の防止や時間外勤務の縮減が進み、繁忙期の負担軽減に効果が出ている。中間市では令和5年度、課税課・市民課など11部署から応援依頼があり、延べ136人の職員の協力があった。これにより行政運営の効率化が図られ、職員間の協力体制や連携意識の向上、市民サービスの質向上につながっている。</p>
今後の発展応用や課題	<p>年度を重ねる毎に応援要請をする部署が増えており、また、応援職員も増えてきていることから、なかま応援システムが全庁的に浸透してきていると考えている。しかし、応援協力する職員は一部の職員に固定化してきていることから、他の職員からも協力が得られるよう、制度の周知を図るとともに、理解の深化に努めていく。</p>